

和田八束先生記念号によせて

和田八束先生は、財団法人国民経済研究協会研究員を経て、1967年に本学経済学部助教授として就任されて以来、1999年3月に定年退職されるまで、本学ならびに経済学部の発展のために力を尽くされました。先生は学部において「財政学」の講義と「ゼミナール」を担当され、多数の学生の教育にあたられました。先生の教育を受けた卒業生は社会の第一線で活躍し、また大学院での指導を通し、多くの研究者、専門家を養成されました。その結果、多くの大学院卒業生が現在、それぞれの専門分野で指導的役割を担い、社会の発展に貢献しております。

先生の専門分野は、「財政学」ですが、三つの研究領域にわたって目覚ましい業績を挙げられました。

第一は財政論に関する領域であり、先生の著書『現代日本の国家財政』（1972年）『日本財政論』（1979年）に集約されますように、日本の財政制度や実態について実証的、批判的分析を展開されました。

第二は租税論の領域であり、先生の著書『現代租税論』（1970年）『租税政策の再検討』（1976年）『租税政策の新展開—財政改革と税制改革』（1986年）『租税特別措置—歴史と構造—』（1992年）『税制改革の理論と現実』（1997年）等によって政策税制の形成を中心に税制全般の理論と実態を幅広く論じてこられました。

また第三は地方財政論の領域です。先生の著書『現代日本の地方財政』（1970年）、編共著『現代地方財政論』（1975年）、編著『地方分権化と地方税財政』（1993年）等に集約されているように地方財政の制度や実態についての分析を展開されました。先生の研究は、財政学全般に及んでいますが、実証分析に基づいた制度や実態についての理論的批判的分析は国や地方自治体の政策課題を浮き彫りにし、現実の政策形成に大きな影響を与えました。

先生は、学会活動や社会活動も活発に展開されました。学会活動においては、日本財政学会や日本地方財政学会の理事として長期間にわたって活躍され、また1979年には日本財政学会の第36回大会を本学で開催することに尽力され、また1991年には、日本地方財政学会の名誉ある大会の本学での開催に力を尽くされました。

先生はまた学会活動だけではなく、国や地方自治体の調査会や審議会の委員としても、活躍され、現実の政策形成の場でも大きな役割を果たされることによって、本学の評価を高めることにも大いに貢献されました。

立教大学は先生のこれまでの教育研究上および社会的貢献を称えて、1999年7月に名誉教授の称号を贈りました。

先生はいま定年退職の時期を迎えられましたが、本学と経済学部の発展に永年にわたって尽

くしてこられた先生のご貢献を記念して、本号を和田八束教授記念号といたします。

先生の今後の一層のご活躍を祈念すると同時にこれまでと変わらぬご助力を本学と経済学部のために賜りますように願ってやみません。

1999年10月

経済学部長 北川 和彦